

令和6年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 学びがあり進路表現できる学校							
① 教育委員会との連携のもと、2次避難している生徒の学習環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> * GIGAスクール校内研修 * 探究型学習の授業研究(オンデマンド研修も活用) * 相互授業参観 * ICT機器利活用研修会 	教務課 各学年 各教科	GIGAスクール構想の下、生徒へのChromebookの配付や、ICT機器の配備が充実しており、これらを活用した探究型授業の更なる研究が求められている。	【成果指標】 ICT機器を活用した探究型授業を取り入れるとともに、よりよい授業となるための研究に取り組んでいる。	ICT機器を利活用した探究型授業を実施し、その研究や改善のための取組や研修会に参加した教員の割合が A: 80%以上 B: 60%以上 C: 30%以上 D: 30%未満	C以下の場合は、教務課を中心に各教科と取組方法を再検討する。	年2回(9月・1月)の教員アンケートで評価
		② 「コア輪島」「夢道場」などの自主学習活動を通して、生徒が主体的かつ発展的に学ぶ姿勢を育成する。	進路指導課 各学年 各教科	学習に対して受け身な生徒が多い上、与えられた課題をこなすことだけに力を注いでいる生徒がいる。同級生からの刺激や、進路志望を明確に持たせることで学ぶ意欲と学力の向上に結びつけたい。また、学年会や教科会議等で指導方法などについて情報共有し、3年間を見通した指導ができる体制を構築する必要がある。	【成果指標】 模擬試験で英国数総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏差値50を超えることができる。	模擬試験で英国数総合の平均偏差値45～50の層にいる生徒が偏差値50を超えることができた割合が A: 50%以上 B: 30%以上 C: 10%以上 D: 10%未満	C以下の場合は学年会、教科会議等で指導体制を検討する。
③ 教員の教科指導力を高め、3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導の実践を図る。	<ul style="list-style-type: none"> * コア輪島、生徒間の学び * スタサボの振り返り * 大学模擬授業や学校説明会の実施 						
2 人間力を向上できる学校							
① 「部活道」については、活動場所や活動内容に創意工夫を加えながらできることから実施し、順次拡大していく。	<ul style="list-style-type: none"> * 部活動、ボランティア * 球技大会、文化祭 	生徒会課 相談課 各部顧問	震災の影響により、様々な制約の中で部活動や学校行事が行われている。その中で、生徒たちが、自ら何ができるか、何ならできると考え実現し、自己効力感を持ちながら活動するための指導の工夫が求められる。	【満足度指数】 学校生活の中で、自分たちで考え協働して実現する場面を取り入れ、自己効力感を育み生徒の主体性が高まる。	部活動や学校行事が自己効力感を高めるための指導になっており、生徒の主体性が高まったと感じる教員の割合が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 50%以上 D: 50%以下	C以下の場合は、指導方法を見直す	年2回(9月・1月)に生徒アンケートを実施
		② 学校行事を通して、他者を思いやりよりよい人間関係を築こうとする心を育成する。	総務課 全職員	令和6年能登半島地震の発災で、様々な活動が困難となっている。生徒たちも震災によるストレスや今後への不安などを訴えている。復興・復旧の進行と共に、わずかではあるが、教育活動も復活の兆しが見えている。しかし、大きく変わった地域人材や地域資源を改めて確認し、教育環境を再構築する必要がある。	【満足度指数】 生徒たちが地域の方々と共に活動することで、自分の存在意義やその役割を感じ、自己有用感を得ることで生徒の主体的な行動につなげる。	地域の活動に参加した際に自分の役割を考え、主体的に行動できたと感じる生徒の割合が、 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 50%以上 D: 50%以下	C以下の場合は、指導方法を見直す
③ 地域、NPO法人、大学などとの連携を強化し、多様な人々と協働して課題解決を図る姿勢を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> * 地域と連携事業 * PTA・同窓会との連携 						

3 地域と共に成長できる学校								
①	「WAI活」を「ふるさと創生」に特化した取組として充実させ、地域貢献意識の向上と実践力の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> * WAI活 * 輪高生による街づくりプロジェクト * 課題解決型学習 	探究推進部 各学年 各教科	震災がもたらした厳しい現実には傷ついている生徒も多いが、その現実の中にも希望を見出し、その間のギャップを課題として捉えてその解決に向けた探究活動を行うことで、実際に未来の輪島を創造していく担い手を育成することが求められている。	【満足度指標】 課題を発見し探究することが現実を変えたり未来を創造したりすることに繋がるという実感を生徒がもつことで、自己有用感・自己肯定感を高め、困難な現実にも立ち向かえる心身の育成に繋げる。	「WAI活」を通して、自己有用感が高まったと感じる生徒の割合が、 A：75%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	C以下の場合、教員対象のファシリテーション講座を実施する。	1月に生徒対象にアンケートを実施
②	輪島市主導の「高校魅力化プロジェクト」との連携により、将来にわたり地域を支えていく人材を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> * 相互授業参観 * 教科間交流 * 研究授業と研究協議会 	管理職 総務課 教務課	震災の影響で市内小中高校が本校校舎でもに学校生活を過ごした。本校のすべての生徒は、この地域で育ち学んでいることから、本校教職員は小中学校での児童生徒の様子を知り、どのように学んでいるかを踏まえて、本校での教科指導や生活指導等を展開する必要がある。	【努力指標】 授業参観に積極的に足を運ぶ等、本校の教員が自ら小中学校との関わりを持つように努める。	校種間での相互授業参観や教科間交流等に参加した教員が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C以下の場合、評価結果を分析し、対応を検討する。	自己申告を管理職が集計し評価
③	小中学校との生徒間交流事業や教員研修、各種団体との連携を通して、「オール輪島」で生徒を育てる。							
4 多忙化改善を積極的に実現できる学校								
①	被災環境の中、すべての行事についてその意義や効果を見直した上で、再開・廃止・変更などを検討し、業務の効率化と最適化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> * 行事の精選・省力化 * 定時退校日の設定 * 主任等ミーティング 	管理職 総務課	震災により本校の施設設備に多くの制限があり様々な活動に支障をきたしている。全教員が学校組織の一員であることを認識し創意工夫の意見を出し合いながら、この困難な状況を乗り切るとともに業務改善を進める必要がある。	【努力指標】 分掌間の連絡を綿密にし主任が核となった業務を進めるとともに、教員一人ひとりがチームで働く意識を高める。	教員自身が自己の役割を認識し主任を中心とした業務を進めていると感じる教員の割合が A：90%以上 B：70%以上 C：50%以上 D：50%未満	C以下の場合、評価結果を分析し、対応を検討する。	年2回（7月・12月）に教員アンケートを実施
②	教員の日常生活の再開と維持に向けて、生活環境の整備を行政等に働きかけ、ワークライフバランスの充実を果たす。	<ul style="list-style-type: none"> * 毎朝の登校指導 * 挨拶運動 * チャイムの停止 	生徒指導課 各学年	昨年度の遅刻「0」の日数の割合は34%であり、通常の登校日数で遅刻「0」の日を割り出すと68日達成となる。1度も遅刻していない生徒は約8割おり、多くの生徒がタイムマネジメントに対する意識が高い。しかし、2割の生徒が遅刻を繰り返し改善ができていないのが現状である。本年度は、遅刻を繰り返してしまう生徒への指導を徹底し、卒業後にセルフマネジメントができる資質や能力を育てていく。	【成果指標】 生徒のタイムマネジメント意識が向上し、自身の不注意による遅刻をなくす。	生徒の不注意による遅刻「0」の日数が年間を通して A：100日以上 B：90日以上 C：80日以上 D：80日未満	C以下の場合、評価結果を分析し、対策を検討する。	生徒指導課による遅刻集計で評価
③	生徒、教職員とともに時間管理や健康管理などセルフマネジメントに対する意識を高め、効率性向上に努める。							